みんなの文芸

俳句・短歌を募集

4日必着

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名・電話番号を明記して企画財政課までお寄せください。
1人1句、1首に限ります。

俳句 根岸茉莉 選　投稿数 39 句

藤堂の御詠歌の沁み初夏の風　国神　鈴木　正文

(評)初夏のある日、寺を訪れた作者が耳にしたのは藤堂(禅宗では引退した住職のこと)が御詠歌を唱う澄んだ美しい声でした。それは胸深く沁み込んで優しく穏やかに心を癒してくれました。風も爽やかで幸せな一時でしたね。二句目、蜂の羽音に振り返ると、なんとあの怖い雀蜂。刺されたら大変。想像しただけで冷や汗です。上手に身をかわし、その顔貌を「不敵なマスク」と捉え一句を物にした作者に脱帽です。三句目、体の不調が季節を知らせると言われます。雨模様でうっとうしい気分、治ったはずの傷跡が最近少し痛む。梅雨入りを体で感じた作者です。梅雨が明けると猛暑です。どうぞお大事に。

振り向けば不敵な面貌雀蜂　皆野　中田　秀夫

傷跡の疼いて梅雨に入りにけり　皆野　櫻井　早苗

修復の池に目映ゆき金魚かな　三沢　新井　民子

精霊を思わすように鳴く河鹿　国神　藤原マキ子

荒らされておこぼれの薯探り掘る　三沢　眞下　杏子

三峰に古式ゆかしき星まつり　皆野　萩原　初惠

短夜の浅き夢には友居りて　皆野　島　弘

備蓄米買う長き列梅雨に入る　皆野　根岸　詩子

螢狩り友との昭和懐かしき　下日野沢　浅見　豊子

あぜ道や雨の調べに蛙唄う　皆野　花垣好比古

裏庭に咲く透し百合仏壇へ　皆野　村田ハツ代

はざくらにまたさいてねとはなしたよ　三沢小一年　長島　大真

ははの日におはなのゆびわをつくったよ　三沢小二年　小河　美月

かわいいなふたごみたいなさくらんぼ　三沢小三年　小河　美麗

短　歌（投稿順）

顔は焼けただれ髪抜け血を吐いて多くの人が八月六日の朝八時十五分　皆野　石原　達也

植樹祭の秩父中継一時間総力挙る映像すばらし　三沢　眞下　杏子

球界の大人物の死を惜しみ日本国中追悼の日　皆野　根岸　詩子

鬱陶しい蜘蛛の巣、顔にたかる夏棒に綿菓子山道を行く　皆野　大澤　貴夫

娘が蒔きし南瓜の苗が我が家へと早速植えて育てることに　下田野　新井　節子

希望乞う衆生の上に慈愛もてそっと背を押す大仏の御手　皆野　萩原　初惠

梅雨入りの報をもたらす雨浴びて麦の穂波は収穫を待つ　皆野　打木　昭廣

極暑の日友より賜ふかき氷心に沁る奥歯に凍る　三沢　新井　叶子

毎年に気温の上昇著し己を励まし日々を乗り切る　三沢　新井　民子

きら〜と流れる川の舟下りしぶきを浴びて上がる歓声　皆野　村田ハツ代

花好きの姑と母を偲ばせる狭庭の花に舞ふ揚羽蝶　下日野沢　浅見　豊子

女孫は旅子規記念館浸りてし俳句を詠めと句手帳届く　国神　藤原マキ子

弓道場築四十六年寿射会出場者現存俺一人　皆野　戸塚喜久雄

戦争のニュース見てから畑行けば鹿の食害戦禍の気分　上日野沢　四方田利男

便利なる物も時には悉く不便な物となりて固まる　皆野　引間　万亀

梅雨明けるコロナも流し晴々と傘やマスクを外しさっぱりと　下日野沢　T・O